

領 域	基礎分野	開講時期	1年前期																																																
科 目 名	論理学	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)																																																
講 師 (所属・職位等・実務経験)	大杉 至 (大分大学名誉教授・29年) 神崎 英紀 (元准教授・35年)																																																		
<p>&lt;科目目標&gt;</p> <p>「推論」(論理的に考えるということ)の基本的な仕組みと推論の日常的な議論への適用である「論証」を理解し、思考を論理的に表現することができる。</p> <p>「論理」とは話の筋道である。「論理的」とは話の筋道におかしいところはないかと疑う人々の批判に耐え、すきがないことである。論理的に考えるとは、批判に耐えるように考えることである。論理的に書くとは間違いを指摘されないように注意して書くことである。それでは批判に耐えるように書くにはどうすればよいか。例えば、文の命題を意識して正確に書くことである。文と文の関係を示す標識語を使って書くことである。この授業では、論理学の基本的な知識の理解とその応用を通じて、論理的に考え、論理的に書く技能の上達を目指す。</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>1. 論理とはなにか</td><td>講義</td></tr> <tr><td>2</td><td>2. 命題とはなにか</td><td>講義</td></tr> <tr><td>3</td><td>3. 否定と反対 「かつ」と「または」</td><td>講義</td></tr> <tr><td>4</td><td>4. 問題演習</td><td>講義</td></tr> <tr><td>5</td><td>5. 条件文</td><td>講義</td></tr> <tr><td>6</td><td>6. 必要条件、十分条件</td><td>講義</td></tr> <tr><td>7</td><td>7. 論理法則</td><td>講義</td></tr> <tr><td>8</td><td>8. 推論の形式—演繹と帰納</td><td>講義</td></tr> <tr><td>9</td><td>9. 文と文の関係 (標識語)</td><td>講義</td></tr> <tr><td>10</td><td>10. 問題演習</td><td>講義</td></tr> <tr><td>11</td><td>11. 議論の文章を書く</td><td>講義</td></tr> <tr><td>12</td><td>12. 議論の文章を評価する</td><td>講義</td></tr> <tr><td>13</td><td>13. シーシスにもとづいて議論の文章を書く</td><td>講義</td></tr> <tr><td>14</td><td>14. 議論の文章を評価する</td><td>講義</td></tr> <tr><td>15</td><td>15. まとめと問題演習</td><td>講義</td></tr> </tbody> </table> <p>授業の進め方 適宜配布するプリント資料を使って進める。</p> <p>テキスト 授業で適宜紹介する。</p> <p>評価方法 授業中のレポートと終講時の筆記試験などで総合的に評価する。</p>				回	授業内容	授業方法	1	1. 論理とはなにか	講義	2	2. 命題とはなにか	講義	3	3. 否定と反対 「かつ」と「または」	講義	4	4. 問題演習	講義	5	5. 条件文	講義	6	6. 必要条件、十分条件	講義	7	7. 論理法則	講義	8	8. 推論の形式—演繹と帰納	講義	9	9. 文と文の関係 (標識語)	講義	10	10. 問題演習	講義	11	11. 議論の文章を書く	講義	12	12. 議論の文章を評価する	講義	13	13. シーシスにもとづいて議論の文章を書く	講義	14	14. 議論の文章を評価する	講義	15	15. まとめと問題演習	講義
回	授業内容	授業方法																																																	
1	1. 論理とはなにか	講義																																																	
2	2. 命題とはなにか	講義																																																	
3	3. 否定と反対 「かつ」と「または」	講義																																																	
4	4. 問題演習	講義																																																	
5	5. 条件文	講義																																																	
6	6. 必要条件、十分条件	講義																																																	
7	7. 論理法則	講義																																																	
8	8. 推論の形式—演繹と帰納	講義																																																	
9	9. 文と文の関係 (標識語)	講義																																																	
10	10. 問題演習	講義																																																	
11	11. 議論の文章を書く	講義																																																	
12	12. 議論の文章を評価する	講義																																																	
13	13. シーシスにもとづいて議論の文章を書く	講義																																																	
14	14. 議論の文章を評価する	講義																																																	
15	15. まとめと問題演習	講義																																																	

領 域	基礎分野	開講時期	1年後期																																																
科 目 名	教育学	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)																																																
講 師 (所属・職位等・実務経験)	山崎 清男 (大分大学名誉教授・31年)																																																		
<p>&lt;科目目標&gt;  教育の意味を考えつつ、人間の成長発達にとって教育が持つ重要性を明らかにする。そして制度化された公教育機関である学校が成立した背景や役割、さらに現代的課題である生涯学習にもふれながら、生涯にわたる人間の正常発達にとって教育という作用が不可欠であることを理解する。</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>1. 教育の本質</td><td>講義</td></tr> <tr><td>2</td><td>2. 人間の可塑性と教育</td><td>講義</td></tr> <tr><td>3</td><td>3. 人間の発達と教育</td><td>講義</td></tr> <tr><td>4</td><td>4. 無意図的教育と意図的教育</td><td>講義</td></tr> <tr><td>5</td><td>5. 素質と環境</td><td>講義</td></tr> <tr><td>6</td><td>6. 教育の諸原理(1)－調和の原理、自発性の原理</td><td>講義</td></tr> <tr><td>7</td><td>7. 教育の諸原理(2)－直観の原理、自然の原理</td><td>講義</td></tr> <tr><td>8</td><td>8. 現代の教育病理(1)－社会の変化と教育病理</td><td>講義</td></tr> <tr><td>9</td><td>9. 現代の教育病理(2)－子どもの発達のな問題</td><td>講義</td></tr> <tr><td>10</td><td>10. 児童虐待</td><td>講義</td></tr> <tr><td>11</td><td>11. 家庭教育(1)－家庭の機能</td><td>講義</td></tr> <tr><td>12</td><td>12. 家庭教育(2)－家庭教育における親の役割</td><td>講義</td></tr> <tr><td>13</td><td>13. 生涯学習の概念</td><td>講義</td></tr> <tr><td>14</td><td>14. 生涯学習論成立の社会的背景(1)－社会の変化と生涯学習</td><td>講義</td></tr> <tr><td>15</td><td>15. 生涯学習論成立の社会的背景(2)－教育危機と生涯学習</td><td>講義</td></tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 教育の本質	講義	2	2. 人間の可塑性と教育	講義	3	3. 人間の発達と教育	講義	4	4. 無意図的教育と意図的教育	講義	5	5. 素質と環境	講義	6	6. 教育の諸原理(1)－調和の原理、自発性の原理	講義	7	7. 教育の諸原理(2)－直観の原理、自然の原理	講義	8	8. 現代の教育病理(1)－社会の変化と教育病理	講義	9	9. 現代の教育病理(2)－子どもの発達のな問題	講義	10	10. 児童虐待	講義	11	11. 家庭教育(1)－家庭の機能	講義	12	12. 家庭教育(2)－家庭教育における親の役割	講義	13	13. 生涯学習の概念	講義	14	14. 生涯学習論成立の社会的背景(1)－社会の変化と生涯学習	講義	15	15. 生涯学習論成立の社会的背景(2)－教育危機と生涯学習	講義
回	授業内容	授業方法																																																	
1	1. 教育の本質	講義																																																	
2	2. 人間の可塑性と教育	講義																																																	
3	3. 人間の発達と教育	講義																																																	
4	4. 無意図的教育と意図的教育	講義																																																	
5	5. 素質と環境	講義																																																	
6	6. 教育の諸原理(1)－調和の原理、自発性の原理	講義																																																	
7	7. 教育の諸原理(2)－直観の原理、自然の原理	講義																																																	
8	8. 現代の教育病理(1)－社会の変化と教育病理	講義																																																	
9	9. 現代の教育病理(2)－子どもの発達のな問題	講義																																																	
10	10. 児童虐待	講義																																																	
11	11. 家庭教育(1)－家庭の機能	講義																																																	
12	12. 家庭教育(2)－家庭教育における親の役割	講義																																																	
13	13. 生涯学習の概念	講義																																																	
14	14. 生涯学習論成立の社会的背景(1)－社会の変化と生涯学習	講義																																																	
15	15. 生涯学習論成立の社会的背景(2)－教育危機と生涯学習	講義																																																	
<p>授業の進め方  基本的には講義形式であるが、黒板やパワーポイント、資料を用い行う。なお講義終了後、毎回簡単なライティングを行う。</p>																																																			
<p>テキスト  特になし。  必要に応じて適宜資料を配付する。</p>																																																			
<p>評価方法  筆記試験  毎回のライティングも成績に加味する。</p>																																																			

領 域	基礎分野	開講時期	1年前期																											
科 目 名	情報科学	単 位 数 (時間数)	1単位(15時間)																											
講 師 (所属・職位等・実務経験)	品川 佳満 (大分県立看護科学大学・准教授・病院電算部1年)																													
<p>&lt;科目目標&gt;          社会における情報化の進展及びコンピュータの役割や仕組みとその利用方法について理解する。医療情報の取り扱いなど情報倫理について理解する。</p>																														
<p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 医療(看護)における情報とは 1) 看護情報学の専門性 2) 医療(看護)における情報</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2. 情報倫理 1) 個人情報の取扱いに関する事故 2) 個人情報保護に関する法</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3. コンピュータの基礎知識 1) 情報の表現と伝達 2) ハードウェアとソフトウェア</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4. コンピュータネットワーク(1) 1) ネットワークの基本知識 2) ネットワーク接続機器 3) 無線LAN</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5. コンピュータネットワーク(2) 1) インターネット 2) クラウドサービス</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>6. 情報セキュリティ 1) 情報セキュリティの基本的な考え方 2) 情報セキュリティ対策</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>7. 医療情報システム(1) 1) 病院情報システムとは 2) オーダリングシステム 3) 看護情報システム</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>8. 医療情報システム(2) 1) 電子カルテシステム 2) 医療情報システム上での患者情報の取り扱い</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 医療(看護)における情報とは 1) 看護情報学の専門性 2) 医療(看護)における情報	講義	2	2. 情報倫理 1) 個人情報の取扱いに関する事故 2) 個人情報保護に関する法	講義	3	3. コンピュータの基礎知識 1) 情報の表現と伝達 2) ハードウェアとソフトウェア	講義	4	4. コンピュータネットワーク(1) 1) ネットワークの基本知識 2) ネットワーク接続機器 3) 無線LAN	講義	5	5. コンピュータネットワーク(2) 1) インターネット 2) クラウドサービス	講義	6	6. 情報セキュリティ 1) 情報セキュリティの基本的な考え方 2) 情報セキュリティ対策	講義	7	7. 医療情報システム(1) 1) 病院情報システムとは 2) オーダリングシステム 3) 看護情報システム	講義	8	8. 医療情報システム(2) 1) 電子カルテシステム 2) 医療情報システム上での患者情報の取り扱い	講義
回	授業内容	授業方法																												
1	1. 医療(看護)における情報とは 1) 看護情報学の専門性 2) 医療(看護)における情報	講義																												
2	2. 情報倫理 1) 個人情報の取扱いに関する事故 2) 個人情報保護に関する法	講義																												
3	3. コンピュータの基礎知識 1) 情報の表現と伝達 2) ハードウェアとソフトウェア	講義																												
4	4. コンピュータネットワーク(1) 1) ネットワークの基本知識 2) ネットワーク接続機器 3) 無線LAN	講義																												
5	5. コンピュータネットワーク(2) 1) インターネット 2) クラウドサービス	講義																												
6	6. 情報セキュリティ 1) 情報セキュリティの基本的な考え方 2) 情報セキュリティ対策	講義																												
7	7. 医療情報システム(1) 1) 病院情報システムとは 2) オーダリングシステム 3) 看護情報システム	講義																												
8	8. 医療情報システム(2) 1) 電子カルテシステム 2) 医療情報システム上での患者情報の取り扱い	講義																												
<p>授業の進め方          その都度、必要な資料を配付する。</p>																														
<p>テキスト          特に指定しない。参考図書は適宜紹介する。</p>																														
<p>評価方法          出席、参加度、筆記試験を総合して判定する。</p>																														

領 域	基礎分野	開講時期	1年前期																																																
科 目 名	情報科学演習	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)																																																
講 師 (所属・職位等・実務経験)	品川 佳満 (大分県立看護科学大学・准教授・病院電算部1年)																																																		
<p>&lt;科目目標&gt;</p> <p>コンピュータを情報処理および管理の道具として使いこなす能力を身につける。また、コミュニケーションや学習の道具としても使える技能を身につける。看護研究に必要な統計処理の基礎知識について学び、実際にコンピュータを使った処理技術を身につける。</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>1. ネットワークの利用 : ファイルサーバ、メール</td><td>講義・演習</td></tr> <tr><td>2</td><td>2. 文書作成(1) : 文書作成の基礎, 図・絵との統合</td><td>講義・演習</td></tr> <tr><td>3</td><td>3. 文書作成(2) : 罫線を使った文書作成</td><td>講義・演習</td></tr> <tr><td>4</td><td>4. プレゼンテーション</td><td>講義・演習</td></tr> <tr><td>5</td><td>5. 表計算(1) : 基本操作</td><td>講義・演習</td></tr> <tr><td>6</td><td>6. 表計算(2) : 計算、関数</td><td>講義・演習</td></tr> <tr><td>7</td><td>7. 表計算(3) : ソート、フィルタ</td><td>講義・演習</td></tr> <tr><td>8</td><td>8. 表計算(4) : グラフ作成</td><td>講義・演習</td></tr> <tr><td>9</td><td>9. 表計算(5) : まとめ・課題</td><td>講義・演習</td></tr> <tr><td>10</td><td>10. データベースの利用 : 情報検索の基礎</td><td>講義・演習</td></tr> <tr><td>11</td><td>11. 統計処理の基礎(1) : データ解析の手順</td><td>講義・演習</td></tr> <tr><td>12</td><td>12. 統計処理の基礎(2) : 質的データの集計とグラフ化</td><td>講義・演習</td></tr> <tr><td>13</td><td>13. 統計処理の基礎(3) : 量的データの集計とグラフ化</td><td>講義・演習</td></tr> <tr><td>14</td><td>14. 統計処理の基礎(4) : 量的データの数値による要約</td><td>講義・演習</td></tr> <tr><td>15</td><td>15. 統計処理の基礎(5) : 課題</td><td>講義・演習</td></tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. ネットワークの利用 : ファイルサーバ、メール	講義・演習	2	2. 文書作成(1) : 文書作成の基礎, 図・絵との統合	講義・演習	3	3. 文書作成(2) : 罫線を使った文書作成	講義・演習	4	4. プレゼンテーション	講義・演習	5	5. 表計算(1) : 基本操作	講義・演習	6	6. 表計算(2) : 計算、関数	講義・演習	7	7. 表計算(3) : ソート、フィルタ	講義・演習	8	8. 表計算(4) : グラフ作成	講義・演習	9	9. 表計算(5) : まとめ・課題	講義・演習	10	10. データベースの利用 : 情報検索の基礎	講義・演習	11	11. 統計処理の基礎(1) : データ解析の手順	講義・演習	12	12. 統計処理の基礎(2) : 質的データの集計とグラフ化	講義・演習	13	13. 統計処理の基礎(3) : 量的データの集計とグラフ化	講義・演習	14	14. 統計処理の基礎(4) : 量的データの数値による要約	講義・演習	15	15. 統計処理の基礎(5) : 課題	講義・演習
回	授業内容	授業方法																																																	
1	1. ネットワークの利用 : ファイルサーバ、メール	講義・演習																																																	
2	2. 文書作成(1) : 文書作成の基礎, 図・絵との統合	講義・演習																																																	
3	3. 文書作成(2) : 罫線を使った文書作成	講義・演習																																																	
4	4. プレゼンテーション	講義・演習																																																	
5	5. 表計算(1) : 基本操作	講義・演習																																																	
6	6. 表計算(2) : 計算、関数	講義・演習																																																	
7	7. 表計算(3) : ソート、フィルタ	講義・演習																																																	
8	8. 表計算(4) : グラフ作成	講義・演習																																																	
9	9. 表計算(5) : まとめ・課題	講義・演習																																																	
10	10. データベースの利用 : 情報検索の基礎	講義・演習																																																	
11	11. 統計処理の基礎(1) : データ解析の手順	講義・演習																																																	
12	12. 統計処理の基礎(2) : 質的データの集計とグラフ化	講義・演習																																																	
13	13. 統計処理の基礎(3) : 量的データの集計とグラフ化	講義・演習																																																	
14	14. 統計処理の基礎(4) : 量的データの数値による要約	講義・演習																																																	
15	15. 統計処理の基礎(5) : 課題	講義・演習																																																	
<p>授業の進め方</p> <p>資料を配付し、実際にコンピュータを操作しながら演習をすすめる。</p>																																																			
<p>テキスト</p> <p>特になし。参考図書は適宜紹介する。</p>																																																			
<p>評価方法</p> <p>出席状況、提出課題により評価する。</p>																																																			

領 域	基礎分野	開講時期	1 年前期																																										
科 目 名	看護物理学	単 位 数 (時間数)	1 単位(30 時間)																																										
講 師 (所属・職位等・実務経験)	小林 正 (大分大学理工学部創生工学科・名誉教授・43 年)																																												
<p>&lt;科目目標&gt; 身近な現象を通して看護に必要な物理学の基礎を学び、身体/身体ケアや検査・治療・処置に関する物理学の原理を理解する。</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 物理学とは 看護への物理学の応用・・・看護物理学 2. 数学の準備：度(degree)と弧度(radian) 三角関数 (sin cos tan) 3. スマホの関数電卓機能による各種計算問題の演習と課題 課題：度・弧度の変換 三角関数の計算とグラフ表示</td> <td>教材提示 装置による講義、演習、課題</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4. 物理量とは スカラー量とベクトル量 5. 国際 (SI) 単位系 基本単位と組立単位 SI 接頭語 (キロ・ミリ) 6. 質量 (k g) と重さ (k g 重)</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>7. 力の合成と分解 三角関数の応用 演習問題 8. 体位と体位変換への力学の応用 9. MKS と CGS 単位系の換算 力N(ニュートン)と dyn (ダイン)</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>10. トルク (力のモーメント) と「てこ」の原理 11. トルクと体位変換 看護への応用 12. 仕事とエネルギー (J、cal、erg) 仕事率 (W(ワット)) の演習問題</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>13. 重心 重心位置の計算 14. 安定の条件 (倒れない条件) 重心線 支持基底面 応用</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>15. 運動量と撃力 定義と計算 身体ケアへの応用 16. 力のつりあい 牽引と身体ケアについて</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>17. 作用 反作用の力 と つりあいの力 看護への応用 18. 摩擦力と摩擦係数 看護と摩擦</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>19. 熱力学：温度・比熱 水の状態変化 融解熱・気化熱の問題 20. 看護における冷罨法と温罨法 水の状態変化と計算問題 21. 体熱の産生・喪失のバランス 伝導・対流・放射での熱の移動</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>22. 看護における電気 電流・電圧・抵抗 オームの法則 直流と交流 直列・並列回路 演習問題 23. 安全電気 電撃：マクロショックとマイクロショック 24. 電力と電力量の計算</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>25. 看護における圧力：胃洗浄とサイホン 血圧 ボンベの圧力 単位の変換：Pa kg(重)/cm<sup>2</sup> mmHg cmH<sub>2</sub>O Torr atm</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>26. ネブライザの原理 動圧と側圧 27. 流体：連続の式 ベルヌーイの式 28. 毛細管現象 表面張力 濡れの現象と界面活性剤</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>29. 血圧測定と音の関係 30. 起立性低血圧 31. 血圧測定に関する注意事項とその根拠</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>32. 胸腔内圧と低圧持続吸引 33. 水封びんと圧制御びんの働き</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 物理学とは 看護への物理学の応用・・・看護物理学 2. 数学の準備：度(degree)と弧度(radian) 三角関数 (sin cos tan) 3. スマホの関数電卓機能による各種計算問題の演習と課題 課題：度・弧度の変換 三角関数の計算とグラフ表示	教材提示 装置による講義、演習、課題	2	4. 物理量とは スカラー量とベクトル量 5. 国際 (SI) 単位系 基本単位と組立単位 SI 接頭語 (キロ・ミリ) 6. 質量 (k g) と重さ (k g 重)	講義 演習	3	7. 力の合成と分解 三角関数の応用 演習問題 8. 体位と体位変換への力学の応用 9. MKS と CGS 単位系の換算 力N(ニュートン)と dyn (ダイン)	講義 演習	4	10. トルク (力のモーメント) と「てこ」の原理 11. トルクと体位変換 看護への応用 12. 仕事とエネルギー (J、cal、erg) 仕事率 (W(ワット)) の演習問題	講義 演習	5	13. 重心 重心位置の計算 14. 安定の条件 (倒れない条件) 重心線 支持基底面 応用	講義 演習	6	15. 運動量と撃力 定義と計算 身体ケアへの応用 16. 力のつりあい 牽引と身体ケアについて	講義 演習	7	17. 作用 反作用の力 と つりあいの力 看護への応用 18. 摩擦力と摩擦係数 看護と摩擦	講義 演習	8	19. 熱力学：温度・比熱 水の状態変化 融解熱・気化熱の問題 20. 看護における冷罨法と温罨法 水の状態変化と計算問題 21. 体熱の産生・喪失のバランス 伝導・対流・放射での熱の移動	講義 演習	9	22. 看護における電気 電流・電圧・抵抗 オームの法則 直流と交流 直列・並列回路 演習問題 23. 安全電気 電撃：マクロショックとマイクロショック 24. 電力と電力量の計算	講義 演習	10	25. 看護における圧力：胃洗浄とサイホン 血圧 ボンベの圧力 単位の変換：Pa kg(重)/cm <sup>2</sup> mmHg cmH <sub>2</sub> O Torr atm	講義	11	26. ネブライザの原理 動圧と側圧 27. 流体：連続の式 ベルヌーイの式 28. 毛細管現象 表面張力 濡れの現象と界面活性剤	講義 演習	12	29. 血圧測定と音の関係 30. 起立性低血圧 31. 血圧測定に関する注意事項とその根拠	講義 演習	13	32. 胸腔内圧と低圧持続吸引 33. 水封びんと圧制御びんの働き	講義
回	授業内容	授業方法																																											
1	1. 物理学とは 看護への物理学の応用・・・看護物理学 2. 数学の準備：度(degree)と弧度(radian) 三角関数 (sin cos tan) 3. スマホの関数電卓機能による各種計算問題の演習と課題 課題：度・弧度の変換 三角関数の計算とグラフ表示	教材提示 装置による講義、演習、課題																																											
2	4. 物理量とは スカラー量とベクトル量 5. 国際 (SI) 単位系 基本単位と組立単位 SI 接頭語 (キロ・ミリ) 6. 質量 (k g) と重さ (k g 重)	講義 演習																																											
3	7. 力の合成と分解 三角関数の応用 演習問題 8. 体位と体位変換への力学の応用 9. MKS と CGS 単位系の換算 力N(ニュートン)と dyn (ダイン)	講義 演習																																											
4	10. トルク (力のモーメント) と「てこ」の原理 11. トルクと体位変換 看護への応用 12. 仕事とエネルギー (J、cal、erg) 仕事率 (W(ワット)) の演習問題	講義 演習																																											
5	13. 重心 重心位置の計算 14. 安定の条件 (倒れない条件) 重心線 支持基底面 応用	講義 演習																																											
6	15. 運動量と撃力 定義と計算 身体ケアへの応用 16. 力のつりあい 牽引と身体ケアについて	講義 演習																																											
7	17. 作用 反作用の力 と つりあいの力 看護への応用 18. 摩擦力と摩擦係数 看護と摩擦	講義 演習																																											
8	19. 熱力学：温度・比熱 水の状態変化 融解熱・気化熱の問題 20. 看護における冷罨法と温罨法 水の状態変化と計算問題 21. 体熱の産生・喪失のバランス 伝導・対流・放射での熱の移動	講義 演習																																											
9	22. 看護における電気 電流・電圧・抵抗 オームの法則 直流と交流 直列・並列回路 演習問題 23. 安全電気 電撃：マクロショックとマイクロショック 24. 電力と電力量の計算	講義 演習																																											
10	25. 看護における圧力：胃洗浄とサイホン 血圧 ボンベの圧力 単位の変換：Pa kg(重)/cm <sup>2</sup> mmHg cmH <sub>2</sub> O Torr atm	講義																																											
11	26. ネブライザの原理 動圧と側圧 27. 流体：連続の式 ベルヌーイの式 28. 毛細管現象 表面張力 濡れの現象と界面活性剤	講義 演習																																											
12	29. 血圧測定と音の関係 30. 起立性低血圧 31. 血圧測定に関する注意事項とその根拠	講義 演習																																											
13	32. 胸腔内圧と低圧持続吸引 33. 水封びんと圧制御びんの働き	講義																																											

回	授業内容	授業方法
14	34. 酸素ポンベ と その取り扱い 35. ボイルの法則 シャルルの法則 ボイル・シャルルの法則	講義 演習
15	36. 総復習	講義

#### 授業の進め方

授業は、中等教育の物理学Ⅰ・Ⅱや力学Ⅰ・Ⅱ（力の合成、トルクなど）、数学(三角関数)の知識を用いて講義を進める。教材提示装置を用いて、教科書及び配布教材をプロジェクターで教室正面のホワイトボードに映して効率よく授業を進める。時には既成品の血圧計、体温計、放射温度計、レーザー長さ測定器等を持ち込み、装置の測定原理、仕様、測定法を分かり易く説明する。或いは講義の説明を助ける実験装置、または動画ソフト等を導入して分かり易く授業を進めていく。

ほぼ毎回のように課題を出します。課題はA4サイズのレポート用紙を縦向きで記入・作成して下さい。課題の提出は次の授業の開始前にクラスごとに集めて提出してください。

#### テキスト

1. 完全版 ベッドサイドを科学する ー看護に生かす物理学ー（学研メディカル秀潤社）

#### 評価方法

課題レポート(ほぼ毎回) と 終講時の筆記試験の結果を勘案して評価する。

領 域	基礎分野	開講時期	1年前期																																																
科 目 名	社会学	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)																																																
講 師 (所属・職位等・実務経験)	大杉 至 (大分大学名誉教授・29年)																																																		
<p>&lt;科目目標&gt;          社会の仕組みや構成、集団による文化や価値観の違いを学び、社会的存在としての人間について理解する。</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>1. 社会学の成立 (A. コントの社会学)</td><td>講義</td></tr> <tr><td>2</td><td>2. ウェーバー社会学の方法</td><td>講義</td></tr> <tr><td>3</td><td>3. ウェーバーの行為理論</td><td>講義</td></tr> <tr><td>4</td><td>4. ウェーバーの資本主義成立論</td><td>講義</td></tr> <tr><td>5</td><td>5. 観念論と唯物論</td><td>講義</td></tr> <tr><td>6</td><td>6. マルクスの資本主義成立論</td><td>講義</td></tr> <tr><td>7</td><td>7. ウェーバーの支配理論</td><td>講義</td></tr> <tr><td>8</td><td>8. 官僚制の理論</td><td>講義</td></tr> <tr><td>9</td><td>9. デュルケムの犯罪理論</td><td>講義</td></tr> <tr><td>10</td><td>10. デュルケムの宗教理論</td><td>講義</td></tr> <tr><td>11</td><td>11. デュルケムの自殺理論</td><td>講義</td></tr> <tr><td>12</td><td>12. 日本の自殺</td><td>講義</td></tr> <tr><td>13</td><td>13. 家族の多様化</td><td>講義</td></tr> <tr><td>14</td><td>14. 家族の分類、離婚率の動向</td><td>講義</td></tr> <tr><td>15</td><td>15. 女性と労働</td><td>講義</td></tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 社会学の成立 (A. コントの社会学)	講義	2	2. ウェーバー社会学の方法	講義	3	3. ウェーバーの行為理論	講義	4	4. ウェーバーの資本主義成立論	講義	5	5. 観念論と唯物論	講義	6	6. マルクスの資本主義成立論	講義	7	7. ウェーバーの支配理論	講義	8	8. 官僚制の理論	講義	9	9. デュルケムの犯罪理論	講義	10	10. デュルケムの宗教理論	講義	11	11. デュルケムの自殺理論	講義	12	12. 日本の自殺	講義	13	13. 家族の多様化	講義	14	14. 家族の分類、離婚率の動向	講義	15	15. 女性と労働	講義
回	授業内容	授業方法																																																	
1	1. 社会学の成立 (A. コントの社会学)	講義																																																	
2	2. ウェーバー社会学の方法	講義																																																	
3	3. ウェーバーの行為理論	講義																																																	
4	4. ウェーバーの資本主義成立論	講義																																																	
5	5. 観念論と唯物論	講義																																																	
6	6. マルクスの資本主義成立論	講義																																																	
7	7. ウェーバーの支配理論	講義																																																	
8	8. 官僚制の理論	講義																																																	
9	9. デュルケムの犯罪理論	講義																																																	
10	10. デュルケムの宗教理論	講義																																																	
11	11. デュルケムの自殺理論	講義																																																	
12	12. 日本の自殺	講義																																																	
13	13. 家族の多様化	講義																																																	
14	14. 家族の分類、離婚率の動向	講義																																																	
15	15. 女性と労働	講義																																																	
<p>授業の進め方          講義内容に関するプリントを配布する。適宜ビデオを使用する。</p>																																																			
<p>テキスト          特になし。参考文献はその都度紹介する。</p>																																																			
<p>評価方法          筆記試験によって評価する。</p>																																																			

領 域	基礎分野	開講時期	1年前期																																																
科 目 名	心理学	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)																																																
講 師 (所属・職位等・実務経験)	川瀬 泰治 (別府大学・名誉教授・43年)																																																		
<p>&lt;科目目標&gt;</p> <p>基礎的な分野で従来積み上げられてきた研究を概観し、心理学の研究対象や研究方法について考える。基礎的な心理学的事実を関連付け統合し、実際の看護や臨床の場面でどのように応用すべきか、また実際になされているかを理解する。</p> <p>心理学は人間の「こころ」について、その働きや構造を明らかにしようとする学問である。「こころ」への興味関心はギリシャ哲学の時代からの人類の普遍的なテーマであるが、この授業では科学としての心理学がスタートして以来の研究成果を概観し、「こころ」についての知識を深める。また、現代社会ではモノからヒトへの転換のもとであらゆる場面で「こころの豊かさ」が求められている。看護職をはじめとしてさまざまな職種において人と人との関わりが重視されつつあることを踏まえ、心理学の知識を応用した対人的な援助・支援のあり方を理解する。</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第一章 心理学とは 心理学の歴史と研究方法、対人援助と心理学</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>第二章 感覚と知覚 外界を理解する、感覚・知覚・認知のしくみとはたらき</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>第二章 感覚と知覚 ゲシュタルトの知覚、空間認知、知覚の恒常性</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>第三章 記憶 記憶のメカニズム、感覚記憶・短期記憶・長期記憶</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>第三章 記憶 長期記憶の構造、意味記憶と概念のネットワーク</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>第四章 思考・言語・知能 論理的思考と知能、言語とコミュニケーション</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>第五章 学習 条件づけと学習理論</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>第五章 学習 深層学習と人工知能</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>第六章 感情と動機づけ 感情のメカニズム、動機づけと欲求</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>第七章 性格とパーソナリティ 性格の理論、性格の測定</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>第八章 社会と集団 社会的認知、対人関係と相互主体性</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>第九章 発達 発達の要因、発達段階</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>第九章 発達 認識の発生過程、心理社会的発達</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>第十章 心理臨床 心理的適応と不適応、心理療法とカウンセリング</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>第十一章 医療・看護と心理 医療職と対人援助、患者の心理、こころのケア</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	第一章 心理学とは 心理学の歴史と研究方法、対人援助と心理学	講義	2	第二章 感覚と知覚 外界を理解する、感覚・知覚・認知のしくみとはたらき	講義	3	第二章 感覚と知覚 ゲシュタルトの知覚、空間認知、知覚の恒常性	講義	4	第三章 記憶 記憶のメカニズム、感覚記憶・短期記憶・長期記憶	講義	5	第三章 記憶 長期記憶の構造、意味記憶と概念のネットワーク	講義	6	第四章 思考・言語・知能 論理的思考と知能、言語とコミュニケーション	講義	7	第五章 学習 条件づけと学習理論	講義	8	第五章 学習 深層学習と人工知能	講義	9	第六章 感情と動機づけ 感情のメカニズム、動機づけと欲求	講義	10	第七章 性格とパーソナリティ 性格の理論、性格の測定	講義	11	第八章 社会と集団 社会的認知、対人関係と相互主体性	講義	12	第九章 発達 発達の要因、発達段階	講義	13	第九章 発達 認識の発生過程、心理社会的発達	講義	14	第十章 心理臨床 心理的適応と不適応、心理療法とカウンセリング	講義	15	第十一章 医療・看護と心理 医療職と対人援助、患者の心理、こころのケア	講義
回	授業内容	授業方法																																																	
1	第一章 心理学とは 心理学の歴史と研究方法、対人援助と心理学	講義																																																	
2	第二章 感覚と知覚 外界を理解する、感覚・知覚・認知のしくみとはたらき	講義																																																	
3	第二章 感覚と知覚 ゲシュタルトの知覚、空間認知、知覚の恒常性	講義																																																	
4	第三章 記憶 記憶のメカニズム、感覚記憶・短期記憶・長期記憶	講義																																																	
5	第三章 記憶 長期記憶の構造、意味記憶と概念のネットワーク	講義																																																	
6	第四章 思考・言語・知能 論理的思考と知能、言語とコミュニケーション	講義																																																	
7	第五章 学習 条件づけと学習理論	講義																																																	
8	第五章 学習 深層学習と人工知能	講義																																																	
9	第六章 感情と動機づけ 感情のメカニズム、動機づけと欲求	講義																																																	
10	第七章 性格とパーソナリティ 性格の理論、性格の測定	講義																																																	
11	第八章 社会と集団 社会的認知、対人関係と相互主体性	講義																																																	
12	第九章 発達 発達の要因、発達段階	講義																																																	
13	第九章 発達 認識の発生過程、心理社会的発達	講義																																																	
14	第十章 心理臨床 心理的適応と不適応、心理療法とカウンセリング	講義																																																	
15	第十一章 医療・看護と心理 医療職と対人援助、患者の心理、こころのケア	講義																																																	
<p>授業の進め方</p> <p>講義形式による授業。 教科書を中心とするが、必要に応じてパワーポイントなどによる補助的な教材を用いる。</p>																																																			
<p>テキスト</p> <p>1. 系統看護学講座 基礎分野 心理学(医学書院)</p>																																																			
<p>評価方法</p> <p>筆記試験による評価</p>																																																			



領 域	基礎分野	開講時期	1年前期～後期
科 目 名	人間関係論 I	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	①長谷川 美枝子 (社会医療法人財団天心堂へつぎ病院 臨床心理科・心理職 22年) ②吉山 尚裕 (大分県立芸術文化短期大学・教授・29年)		
<p>&lt;科目目標&gt;</p> <p>人間関係の心理の基礎や心の問題を解決する治療法・技法の特徴と理論、心理臨床に関する理論と実践の基礎を理解する。闘病生活を支える人間関係・保健医療チームの人間関係・家族を支える人間関係など、臨床場面の看護における人間関係について理解する。</p> <p>&lt;内容&gt;</p>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1	1. 人間関係の心理の基礎 1) 人間の成長・発達上における各時期の課題 2) 自分自身を知る 3) 人間関係の中の自分	講義 演習	①
2	4) 対人認知と自己呈示 5) 好き嫌いの人間関係 6) 表現とコミュニケーション	講義 演習	①
3	7) 援助の人間関係 8) 怒りと攻撃の人間関係 9) 集団と組織の中の人間関係	講義 演習	①
4	2. 心理臨床に関する理論と実際 1) 心に表れるさまざまな症状 2) 心理アセスメント	講義 演習	①
5	3) 心の問題を解決する心理療法・技法の特徴と理論	講義 演習	①
6	3. 看護の臨床場面での人間関係 1) 疾病各期における医療従事者との人間関係 2) 患者・家族が医療従事者に求めるもの 3) インフォームド・コンセントが実現しうる関係	講義 演習	①
7	4) 転移ー逆転移 5) 看護師の役割	講義 演習	①
8	6) 終末期のケアの特徴 7) 終末期の患者・家族へのケア	講義 演習	①
9	8) 死別後の悲嘆プロセスを支える 9) 援助することのもつ意味 10) 共依存の概念	講義 演習	①
10～ 12	[第一部] ●小講義「看護と人間関係」 ■GW1「自分を知らせる、他者を知る」(ワールドカフェによる自己紹介) ■GW2「メンバーから見た自己」(複数の眼で自分を見つめよう) ■GW3「話し合い実習」(話し合いによる課題解決に挑戦)	講義 演習	②
13～ 15	[第二部] ●小講義「人間関係スキルとは」(簡単な心理尺度を使って自己点検) ■GW4「看護学生に期待される態度・行動・役割を探る」(ブレインストーミングとKJ法) ■GW5「アクションプラン(行動目標)の設定」 (あなたが看護学生として、明日から夏休みまで実行する行動目標を1つ決めます)	講義 演習	②

#### 授業の進め方

1～9 講目は、講義・演習で進める。

10～15 講目は、次の3つを目標とします。①これからの学生生活で協働していく「知り合い」「友だち」「仲間」を作る。②自己の人間関係スキルを点検しながら、その向上をめざす。③看護学生に求められる態度・行動・役割を探り、学生生活を充実させる糧とする。

授業は、グループ体験学習で「グループワーク（GW）実習」と「ふり返し」の2つのステップで進める。演習では、5～6名の小集団をつくり、課題に取り組む。ふり返しでは、実習中の自己や他者の行動、お互いの関わり方、グループの動きなどについて、見たこと・感じたこと・気づいたことを報告し合う。

#### テキスト

1. 系統看護学講座 基礎分野 「人間関係論」(医学書院)：①
2. ナースのための心理学② 患者の心理とケアの指針 (金子書房)：①

#### 評価方法

- 課題レポート、筆記試験 (小テスト、終講テスト)：①  
出席状況 研修レポート アクションプランの実践とふり返し：②

領 域	基礎分野	開講時期	1年後期
科 目 名	人間関係論Ⅱ	単 位 数 (時間数)	1単位(15時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	長谷川 美枝子 (社会医療法人財団天心堂へつぎ病院 臨床心理科・心理職・22年)		

<科目目標>

自己の意見・考え・欲求・気持ちなどを率直で正直に相互尊重のもとに自己表現するというアサーションの考え方を理解し、アサーティブな自己表現スキルを身につける。医療現場での看護に生かすコミュニケーションのもち方を理解する。

<単元目標>

1. ナースになぜアサーションが必要なのかについて理解する。
2. 医療現場でのコミュニケーションの特徴について理解する。
3. DESC法について理解する。
4. 傾聴スキルについて理解する。
5. 医療現場でのコミュニケーションのもち方について理解する。

<内容>

回	授業内容	授業方法
1	1. ナースになぜアサーションが必要なのか 1) アサーティブな自己表現とは 2) ナースがアサーティブになれば何が変わるか (事例) 3) ナースがなぜアサーティブになりづらいのか	講義 演習
2	2. 医療現場でのコミュニケーションの特徴 1) 非主張的なコミュニケーション (事例) ・患者に対して ・医師に対して ・ナースに対して ・医療チームに対して 2) 攻撃的にコミュニケーション (事例) ・患者に対して ・医師に対して ・ナースに対して ・医療チームに対して 3) 質問への応答 (その1)	講義 演習
3	3. DESC法 (1) 1) DESC法とは 2) DESC法の実例 (事例) 3) 正確な理解	講義 演習
4	4. 傾聴スキル 1) 積極的傾聴 2) 明確化 (事例) 3) 沈黙の意味 (事例) 4) 応答の3つの要素 (事例)	講義 演習
5	5. ロールプレイ 1) ロールプレイ 2) 患者・家族の気持ちを推察する (事例) 3) 感情の扱いをめぐって	講義 演習
6	6. 医療現場でのコミュニケーションのもち方 1) 患者に対するアサーティブな自己表現 (事例) 2) 医師に対するアサーティブな自己表現 (事例) 3) ナースに対するアサーティブな自己表現 (事例) 4) 医療チームにおけるアサーティブな自己表現 (事例)	講義 演習
7	7. DESC法 (2) 1) 臨床場面での困難をアサーションでどう克服するか (事例) 2) 質問への応答 (その2)	講義 演習

回	授業内容	授業方法
8	8. DESC 法 (3) 1) 臨床場面での困難をアサーションでどう克服するか (事例) 2) 質問への応答 (その3)	講義 演習
授業の進め方 (教授方法, 教材・教具など) 講義・ロールプレイ		
テキスト 1. アサーショントレーニング講座『ナースのためのアサーション』(金子書房) このほか、適宜配布資料を準備する。		
評価方法 課題レポート, 筆記試験 (小テスト, 終講テスト)		

領 域	基礎分野	開講時期	1年前期																																																
科 目 名	英会話	単 位 数 (時間数)	1単位 (30時間)																																																
講 師 (所属・職位等・実務経験)	O' Connor Tomás (別府大学 文学部・准教授・大学教歴・10年)																																																		
<p>&lt;科目目標&gt; 医療・看護の国際化への対応を視野に入れ、実際の看護場面を想定し、日常会話や臨床看護場面での英語会話もどちらもこなせるようになるための英語によるコミュニケーションを身につける。</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Welcoming a Patient 位置を示す表現</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Taking Vital Signs バイタルを測る機器類</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Pain Assessment 痛みを表す表現</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Feeling So Sick! 病状チェック表</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Transferring a Patient 体位/動きの表現</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Medical Departments 診療科と専門医/検査のための表現</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>中間試験実施 Review and Medical Terminology</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Personal Care 身だしなみ用具/日常生活援助表現</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Giving Medication to a Patient 薬剤の種類</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Bowel Movement/Urination 排泄の表現/排尿の仕組み</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Chronic Diseases 患者情報収集/慢性病とは</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Critical Care/Operating Room 救急室で</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>インターネット上英語学習教材使用 音楽歌詞空所補充</td> <td>講義・演習 情報処理 室使用</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Pregnancy Check-up 妊娠初期・中期/陣痛と出産</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>Review and Medical Reading 復習と医学英文読解</td> <td>講義・演習</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	Welcoming a Patient 位置を示す表現	講義・演習	2	Taking Vital Signs バイタルを測る機器類	講義・演習	3	Pain Assessment 痛みを表す表現	講義・演習	4	Feeling So Sick! 病状チェック表	講義・演習	5	Transferring a Patient 体位/動きの表現	講義・演習	6	Medical Departments 診療科と専門医/検査のための表現	講義・演習	7	中間試験実施 Review and Medical Terminology	講義・演習	8	Personal Care 身だしなみ用具/日常生活援助表現	講義・演習	9	Giving Medication to a Patient 薬剤の種類	講義・演習	10	Bowel Movement/Urination 排泄の表現/排尿の仕組み	講義・演習	11	Chronic Diseases 患者情報収集/慢性病とは	講義・演習	12	Critical Care/Operating Room 救急室で	講義・演習	13	インターネット上英語学習教材使用 音楽歌詞空所補充	講義・演習 情報処理 室使用	14	Pregnancy Check-up 妊娠初期・中期/陣痛と出産	講義・演習	15	Review and Medical Reading 復習と医学英文読解	講義・演習
回	授業内容	授業方法																																																	
1	Welcoming a Patient 位置を示す表現	講義・演習																																																	
2	Taking Vital Signs バイタルを測る機器類	講義・演習																																																	
3	Pain Assessment 痛みを表す表現	講義・演習																																																	
4	Feeling So Sick! 病状チェック表	講義・演習																																																	
5	Transferring a Patient 体位/動きの表現	講義・演習																																																	
6	Medical Departments 診療科と専門医/検査のための表現	講義・演習																																																	
7	中間試験実施 Review and Medical Terminology	講義・演習																																																	
8	Personal Care 身だしなみ用具/日常生活援助表現	講義・演習																																																	
9	Giving Medication to a Patient 薬剤の種類	講義・演習																																																	
10	Bowel Movement/Urination 排泄の表現/排尿の仕組み	講義・演習																																																	
11	Chronic Diseases 患者情報収集/慢性病とは	講義・演習																																																	
12	Critical Care/Operating Room 救急室で	講義・演習																																																	
13	インターネット上英語学習教材使用 音楽歌詞空所補充	講義・演習 情報処理 室使用																																																	
14	Pregnancy Check-up 妊娠初期・中期/陣痛と出産	講義・演習																																																	
15	Review and Medical Reading 復習と医学英文読解	講義・演習																																																	
<p>授業の進め方</p> <p>INPUT を重視して、専門分野（医療、看護）の語彙や表現を学ぶ。 OUTPUT のために、「英語の音声を聴く・話す」を練習する。 印刷教材のほか、マルチメディアを活用する。</p>																																																			
<p>テキスト</p> <p>1. Talking with Your Patients in English (成美堂) 2019</p>																																																			
<p>評価方法</p> <p>終講時の筆記試験のほかに小テストなども合わせて、総合的に判定する。</p>																																																			

領 域	基礎分野	開講時期	1年後期
科 目 名	英語講読	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	O' Connor Tomás (別府大学 文学部・准教授・大学教歴・10年)		

<科目目標>

国際化にともない、変化する日本の医療・看護の現場で看護職をめざす学生が、専門分野の英語による文献、論文、アブストラクトやインターネットサイトの情報について読解し、その内容を理解する。

<内容>

回	授業内容	授業方法
1	What worries Barbara? 命令文 医療関係の職業	講義・演習
2	That' s Mama' s Hair! be/ have 動詞、身体 (外側)	講義・演習
3	Menstrual Problems 現在分詞：～ing 身体 (骨、筋肉)	講義・演習
4	Right or Left? 疑問詞 which、身体 (内側)	講義・演習
5	How to Give First Aid 名詞の形 病院の科の名称	講義・演習
6	LGBT People Restroom Accessibility 病院関連	講義・演習
7	Are You Being Abused? 動名詞 病状 (痛みなど)	講義・演習
8	中間試験実施 Giving Blood 基本的な文の形	講義・演習
9	Living a Healthy Life 関係代名詞 (病気1、2)	講義・演習
10	Is the Treatment Different or Not? 現在完了と過去完了	講義・演習
11	Is Hepatitis B Curable? that の用法 (病気3、4)	講義・演習
12	インターネット上英語学習使用、音楽歌詞空所補充	講義・演習 情報処理 室使用
13	Do you want to be skinny? 時制 治療・手術	講義・演習
14	Foreign Nurses Struggle for the Japanese Language	講義・演習
15	受動態 薬剤関連 医療関係の道具 復習	講義・演習

授業の進め方

INPUT として英語の基礎を充実させ、専門分野 (医療、看護) の語彙や表現を学ぶ。  
OUTPUT のために、「英語の音声を聴く・話す」を練習する。  
印刷教材のほか、マルチメディアを活用する。

テキスト

1. Healthy Habits for a Better Life (2021年 成美堂)

評価方法

終講時の筆記試験のほかに毎回の小テストなども合わせて、総合的に判定する。

領 域	基礎分野	開講時期	1年前期
科 目 名	体育理論	単 位 数 (時間数)	1単位(15時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	洲 雅明 (大分県立芸術文化短期大学・教授・30年)		

<科目目標>

現代における健康のあり方について考察し、健康を保持・増進し、体力向上のための具体的方法について理解する。

<内容>

回	授業内容		授業方法
1	健康と生活	健康づくり、運動プログラム、体力とは	講義
2	肥満と体脂肪	体脂肪の役割や測定法、メタボリックシンドローム	講義
3	運動処方	運動強度、運動時間、運動頻度、運動種目	講義
4	健康に良い運動とは1	有酸素運動	講義
5	健康に良い運動とは2	筋肉づくり運動	講義
6	健康に良い運動とは3	ストレッチ体操	講義
7	メンタルヘルス	ストレスや集中力、リラックスについて	講義
8	睡眠	睡眠の役割や仕組みについて	講義

授業の進め方

パワーポイントを使用して講義を進めていきます。パワーポイントの内容はプリントで配布しますが、重要と思ったことは余白に書き取ってください。講義内容に関連のある映像を観ることがあります。

テキスト

教科書等は特に指定しません。

評価方法

筆記試験（終講テスト）

領 域	基礎分野	開講時期	1 年前期～後期																																																
科 目 名	体育実技	単 位 数 (時間数)	1 単位(30 時間)																																																
講 師 (所属・職位等・実務経験)	洲 雅明 (大分県立芸術文化短期大学・教授・30 年)																																																		
<p>&lt;科目目標&gt;  様々な運動やスポーツを実践することで、仲間とのコミュニケーションを図るとともに、協力や協調性を理解する。また、授業をきっかけに、運動と健康の関連性を認識し、運動を実践する重要性を理解する。</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション チーム分けと身体ほぐし</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>バレーボール 基本練習</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>バレーボール リーグ戦1</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>バレーボール リーグ戦2</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>バレーボール リーグ戦3</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>バスケットボール 基本練習</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>バスケットボール リーグ戦1</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>バスケットボール リーグ戦2</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>バスケットボール リーグ戦3</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>バドミントン・卓球 2グループずつどちらかの種目の基本練習</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>バドミントン・卓球 ダブルスゲーム</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>バドミントン・卓球 もう一つの種目の基本練習</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>バドミントン・卓球 ダブルスゲーム</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>バドミントン・卓球 他グループとの交流戦</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>実施種目の技術測定 上記4種目の基本技術に関する測定</td> <td>演習</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	オリエンテーション チーム分けと身体ほぐし	演習	2	バレーボール 基本練習	演習	3	バレーボール リーグ戦1	演習	4	バレーボール リーグ戦2	演習	5	バレーボール リーグ戦3	演習	6	バスケットボール 基本練習	演習	7	バスケットボール リーグ戦1	演習	8	バスケットボール リーグ戦2	演習	9	バスケットボール リーグ戦3	演習	10	バドミントン・卓球 2グループずつどちらかの種目の基本練習	演習	11	バドミントン・卓球 ダブルスゲーム	演習	12	バドミントン・卓球 もう一つの種目の基本練習	演習	13	バドミントン・卓球 ダブルスゲーム	演習	14	バドミントン・卓球 他グループとの交流戦	演習	15	実施種目の技術測定 上記4種目の基本技術に関する測定	演習
回	授業内容	授業方法																																																	
1	オリエンテーション チーム分けと身体ほぐし	演習																																																	
2	バレーボール 基本練習	演習																																																	
3	バレーボール リーグ戦1	演習																																																	
4	バレーボール リーグ戦2	演習																																																	
5	バレーボール リーグ戦3	演習																																																	
6	バスケットボール 基本練習	演習																																																	
7	バスケットボール リーグ戦1	演習																																																	
8	バスケットボール リーグ戦2	演習																																																	
9	バスケットボール リーグ戦3	演習																																																	
10	バドミントン・卓球 2グループずつどちらかの種目の基本練習	演習																																																	
11	バドミントン・卓球 ダブルスゲーム	演習																																																	
12	バドミントン・卓球 もう一つの種目の基本練習	演習																																																	
13	バドミントン・卓球 ダブルスゲーム	演習																																																	
14	バドミントン・卓球 他グループとの交流戦	演習																																																	
15	実施種目の技術測定 上記4種目の基本技術に関する測定	演習																																																	
<p>授業の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ストレッチ体操 (毎回最初に実施)  ストレッチ体操は、授業においては怪我やパフォーマンスの向上などを目的に準備体操として行いますが、日常生活で行うと疲労回復や柔軟性の向上に役立ちます。</li> <li>2. バレーボール  バスケットボールに同じく、集団で行う球技なので戦術や協力が必要です。チームを作り、リーグ戦形式で行っていきます。サーブ、レシーブ、トス、スパイク、ブロックなどの基本的な技術も大切ですが、声を掛け合ったりカバーしたりするプレーも重要です。</li> <li>3. バスケットボール  個人の技術に加え、集団で行う球技なので戦術や協力が必要です。チームを作りリーグ戦形式で行っていきます。また、試合の中では、ドリブル、パス、シュートなどのボールハンドリング技術に加え、走ることも多く持久力を必要とします。</li> <li>4. バドミントンと卓球  これらのネット競技は、最低2人いれば取り組めるので、今後余暇時間に実施しやすいスポーツ種目です。正式に近い形でのルールを覚え、シングルスやダブルスゲームを実施していきます。様々な人たちと試合を進める中で、コミュニケーションを図っていきましょう。  まずストレッチ体操(10分)を行い、基本練習(20分)をして、試合(60分)を進めていきます。待ち時間もあるので、他人の観察や応援も行ってください。</li> </ol>																																																			
<p>テキスト</p> <p>特にありませんが、各スポーツの書籍を読んだり、HPを検索してルールや技術を予習・復習したりなどしてください。</p>																																																			
<p>評価方法</p> <p>平常点、リーグ戦などの結果、基本技術の測定、感想などを総合的に評価する。</p>																																																			